

7 研究構想図

学校教育目標「都呂々を愛し、互いに思い合い、自ら問い続け、
たくましい都呂々っ子の育成」

研究主題「自ら学び、思いや考えを表現する力を伸ばす都呂々っ子を目指して」
～「自分たちでできる・わかる」を感じられる授業づくりを通して～

研究がめざす児童

課題に向き合い、自分の考えを表現しながら、学び合うことで力を
伸ばしていこうとする子ども

研究の仮説及び具体的実践事項

仮説1

何を身につけるのかを明確にした授業づくりを行うことで、児童は授業を通して身につけた力を実感し、「自ら学ぶ」意欲を高め、進んで学習に取り組むようになるであろう。

仮説2

自分の考えを持てるように個に合わせた手立て、交流する場を工夫することで、児童は自分の考えを表現し、より良い考えに深め合おうとすることができるようになるであろう。

視点1【何を身につけるのかを明確にした授業づくり】

- ①児童が目的意識を持てるような単元デザインの工夫
 - 単元ゴールの明確化
 - 単元ゴールに迫る単元を通した学習課題
- ②学習過程の工夫
 - 「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫
 - 「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫
 - 実感や達成感、更なる意欲が生まれる終末の工夫
 - 振り返りの充実
(振り返りの視点)
- ③簡潔な説明・発問・指示の工夫
- ④ICTの効果的な活用

視点2【自分の考えを持てる手立て、交流する場の工夫】

- ①自分の考えを持たせるための工夫
 - ペアやグループ活動の活用
 - ヒントカード
 - ICTの活用
- ②児童の学び方のスキルアップ
 - 「伝え方」「聞き方」「まとめ方」
 - 反応の仕方
- ③ICTの活用
- ④少人数グループ学習(複式学習)の進め方が生まれる導入の工夫
 - 学習の流れの明確化

主体的学習につながる基本的な生活習慣の定着

学習環境の整備

家庭と連携した日々の取組が重要です。

- これらを支えるものとして
- 基本的な学習訓練、学習規律の徹底
 - 基礎学力向上、家庭学習の習慣化等
 - 日常指導の充実

児童の実態の把握と家庭・地域との共有
支持的風土の醸成



つばきちゃん
(峯北町ゆるキャラ)